

さいこう み え でんどう し と
最高の実を得たテサロニケ伝道(使徒17:1-9)

か
3課のフォーラム

「すべての信者の模範」

- かれ 彼らはアムピポリスとアポロニヤをとお 通って、テサロニケへ行った。そこには、ユダヤ人^{じん}の会堂^{かいどう}があった。
- パウロはいつもしているように、会堂^{かいどう}にはいって行って、三つの安息日^{あんそくにち}にわたり、聖書^{せいしょ}に基づいて彼ら^{かれら}と論じた。
- そして、キリストは苦しみをう受け、死者^{ししや}の中からよみがえらなければならないことを説明^{せつめい}し、また論証^{ろんしょう}して、「私^{わたし}があなたがたに伝えて^{つた}いるこのイエスこそ、キリストなのです。」と言った。
- かれ 彼らのうちの幾人^{いくにん}かはよくわかって、パウロとシラスに従^{したが}った。またほかに、神^{かみ}を敬^{うやま}うギリシヤ人^{じん}が大ぜいおり、貴婦人^{きふじん}たちも少なくなかった。

か ないよう がくいんふくいんか
3課の内容は学院福音化のテキストのまま見て黙想^{もくそう}してください。

きょう ほんぶん
今日の本文は、パウロとシラスの第二次伝道旅行^{だいにじでんどうりょこう}の中のテサロニケ伝道^{でんどう}の内容です。1節から9節の短い内容^{ないよう}の中で、テサロニケでどのような最高^{さいこう}の実を得たのかを推測^{すいそく}するのは簡単^{かんたん}ではないので、テサロニケ人^{びと}への手紙^{てがみ}に書かれたいくつかの聖句^{せいこ}に基づいて、その実^みが何であるかを見てみましょう。

テサロニケ教会^{きょうかい}は、使徒^{しと}パウロの宣教旅行^{せんきやうりょこう}の中で、比較的^{ひかくてき}、短い期間^{みじか きかん}の働き^{はたら}きで建てられた教会^{きょうかい}でした。2節に書いてあるように、約3週間^{やくしゅうかん}と少しの期間^{すこ きかん}だったようです。それにもかかわらず、多くのギリシヤ人^{じん}と貴婦人^{きふじん}が教会^{きょうかい}の一員^{いちいん}になります。このように、テサロニケ教会^{きょうかい}が建てられたのには、神様^{かみさま}がヤソンと彼の家^{かれ いえ}を準備^{じゅんび}しておられたからでした。しかし、いつものように、イエスがキリストという真^{まこと}の福音^{ふくいん}の伝わることを憎むユダヤ人^{じん}（実はサタン。Iテサ2:15-18、黙2:9）の迫害^{はくがい}のために、急いでベレヤ^{いそ}に移動^{いどう}します。教会^{きょうかい}の聖徒^{せいと}たちが気になったパウロは、アテネでテモテを送り、テサロニケ教会^{きょうかい}に行^いって来たテモテによって話^{はなし}を聞き、彼ら^{かれ}を励^{はげ}まし、テサロニケ教会^{きょうかい}にあった間違^{まちが}った終末論^{しゅうまつろん}についての見解^{けんかい}を正^{ただ}すために、テサロニケ人^{びと}への手紙^{てがみ}第一^{だいいち}、第二^{だいに}を記録^{きろく}しました。

か びと てがみ とお
このように書かれたテサロニケ人^{びと}への手紙^{てがみ}を通して、テサロニケ教会^{きょうかい}がどのような最高^{さいこう}の実^みになったかを見^みることができます。



I テサロニケ1:7

「こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。」

それでは、テサロニケ教会の聖徒たちの、どのような信仰が他の人々の模範となったのかを見てみましょう。

まず、I テサロニケ1:3節のみことばです。

「絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。」

信仰、愛、希望は神様から来るものです。恵みの贈り物として信仰を与えてくださった神様が私たちの中で働いておられ、十字架を通して愛を明らかにしてくださった神様が私たちの中で労苦しておられ、みこころのままに成し遂げるまで忍耐された神様が私たちに真の神の国を望むようにしてくださったのです。テサロニケ教会の聖徒たちは、これらすべてが神様の恵みであることを知っている人たちであり、そのような神様の働きに召されて用いられた人たちでした。続いて4節にパウロが話します。

「神に愛されている兄弟たち。あなたがたが神に選ばれた者であることは私たちが知っています。」

二番目にI テサロニケ1:5-6節のみことばです。

5 なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。

6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主となる者になりました。

福音は私たちの主イエス・キリストであり（ローマ1:2-4）、イエス・キリストは人となってこの地に來られた神様のみことば（ヨハネ1:14）です。

テサロニケ教会の聖徒たちは、パウロを通して宣言された福音のことばを受けるとき、聖霊の喜びでことばを受けました。それは聖霊の力と確信によってなされたことです。

パウロは2章でもう一度記録します。

「こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。」（I テサロニケ2:13）



テサロニケ教会の聖徒たちは、神様のみことばを受けたときに、人の言葉ではなく、
神様のみことばとして受けました。神様のみことばが彼らの中で働くことで、彼らは
主にならう者となり、信仰の働きと愛の労苦と望みの忍耐を持っていました。そのため、マケドニヤとアカヤ地域のすべての信者の模範となる教会となったのです。